

皆様、お変わりなくお過ごしですか？ アースガーデンおひさま発電所の累積発電量は今日で27,580kWh。シャワー、入浴のお湯もおひさまパワーでまかなわれています。メタン発酵槽のメタン菌も元気いっぱい、少量の調理用ガスが定期的に得られます。ミミズコンポストのミミズ達は暑さ対策用のカバーを2重にかけてもらい、元気に生ゴミを食べています。お庭の植物も真夏の太陽の中とても元気です。

さて、今日は3ヶ月近く遡った初夏のサクランボと鳥達のお話からお伝えします。5月20日頃にサクランボの実が深紅に熟すと、鳥達が大騒ぎする喧噪の日々が約1週間続きます。うちのサクランボは「暖地」という種類で、市販の高級品種とは異なりますが、手がかからず、病害虫とも無縁で毎年実をたくさんつけてくれます。すると小さな野鳥がやってきて、うれしそうに実をついばみます。その様子は可愛くて、見ていて楽しいです。そこへヒヨドリのカップルが来ると、小さな鳥達は逃げて行きます。ヒヨドリ達がサクランボを食べていると、別のヒヨドリ達が飛んで来て、ピーピーギャーギャーと騒がしい喧嘩が始まり、負けたヒヨドリが逃げ、勝った方がうれしそうに鳴きながらサクランボを食べます。すると今度はカラスがやってきて、ヒヨドリを追い払い、ヒヨドリ達はけたたましくピーピーと鳴きながら逃げていきます。5月末にはこんな一連の騒ぎが毎日何回も繰り返されるのです。ある年はこの時期に外出が続き、鳥達の騒動も耳にすることなく、気がつくときサクランボは全て鳥達に食べられていました。ネットをかけたり、テグスをはったり、ギンギラ目玉のプラスチックの猫の顔を吊るしたり、いろいろ試みたのですが効果は殆どありませんでした。以来、人間の分を確保するため、できるだけ頻繁に収穫作業をするようにしています。



写真①

6月には、モリオアガエルがまた庭に来てくれました。アースガーデン東側の田圃、畑や栗林がなくなり、道路ができ、酒造工場の工事が始まったので「今年はもう来てくれないのでは？」ととても心配でした。でも来てくれたのです！ 産卵した卵塊数は例年より少なく、個体数も少ないようでしたが...とても楽しい写真が撮れました。軒下に吊るされている「竹の風鈴」(写真①)に、モリオアガエルがのっています(写真②)。雄のようです。夜になるといなくなります。食事とガールフレンド探しに出かけるのでしょうか。朝にはまた戻っています。地上のプランターから伸びている「琉球スズメウリ」の蔓を伝って上り降りしているようです。



写真②

夏は庭の野菜が沢山収穫できます。殆ど野菜を買う必要がないほど収穫でき、加えて余剰野菜を知人がやっている京都市内のカフェに1週間~10日に一度、提供できています。写真③はキュウリ、ズッキーニ、ナス、万願寺トウガラシ、ツルムラサキ、ピーマン、モロヘイヤ、ルバーブ(ジャム用)、人参葉、スベリヒユです。スベリヒユ(写真③の左上)は美山町ではアカジクとも呼ばれ、やっかいな雑草とされていますが、私は食用にしています。若い葉を生でサラダにしたり、茹でて水にさらして胡麻和え、酢のもの、みそ汁に活用しています。スベリヒユにはオメガ3脂肪酸が多く含まれていて、ニューヨークではベジタリアンに人気のある高級健康食品として販売されているという話を最近聞きました。トルコ、ギリシャでは生、又は炒めてサラダにするとのこと。山形県ではスベリヒユは「ひょう」と呼ばれ、茹でて芥子醤油で食べたり、茹でて干したものは保存食だそうです。また民間薬として解熱、解毒、虫毒に利用されたり、利尿作用があり、葉の汁が虫さされに効くことが文献に記されています(→ウィキペディア)。薬効と使い方が書かれた薬用植物一覧表のサイトも見つけました。



写真③

(<http://www.e-yakusou.com/sou/soum040.htm>)

スベリヒユに留まらず、雑草とされているものの多くは食用になり、薬効成分があることを私は少しずつ学んでいます。植物によっては多食しないよう心がけてもいます。では残暑厳しい中、ご自愛ください。

アースガーデンおひさま発電所 発電データ (5kW 規模)			
	2014年		
	5月	6月	7月
発電量(kWh)	615	493	578